令和4年度

学校自己評価表 (計画)

<u> </u>	文	<u> </u>	의 /				
		1 探究学習を中核として、自己肯定感を高め主体的に自己実現に向かうことができる生徒を育成する					
		徒を育成する					
		2 基礎学力の向上と学習意欲の喚起を図	③るとともに、自分で自分の学びを調整しながら				
		進路希望の実現にむけ粘り強く取り組む生徒を育成する					
学长:	雷尚士弘						
学校運営方針		3 保護者や地域と連携した取り組みを積極的に推進し、地域貢献できる生徒を育成す					
		3.					
		4 教員集団が互いの良さを認め合いながら組織的な学びの場を構築し、授業改善研修や					
		生徒指導研修、ICT活用研修等を通じて生徒の成長を支援する。					
		5 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を遵守することによる、生					
		徒と向き合う時間を確保する。					
	その成果と課題 こうしゅう	令和4年度の重点目標	具体的目標				
	究の時間推進事業の	(1) 主体的に学び続ける態度を養い、	学力のスタート地点を確認し、どこまで伸ばせ				
		他者との対話や協働を重ねなが	たか、「伸びしろ」を検証するため、スタディ				
	、先行実施の3年間						
	とができた。身につ	ら、思考力・判断力・表現力の向	サポート等の結果を分析・検討し、指導の工				
けた探究の型を活用し、地域や社		上を図る	夫・充実を図る。また、「東(あゆ)の風プラ				
会の人、もの、ことに関わり課題			ン」等をとおして、対話する場面と協働する場				
設定の質を高め、自己の在り方生			面を多く設定し思考力・判断力・表現力の向上				
き方を考えながら、より良く課題			を図る。				
を発見し解決していく資質・能力		(2) 一人一台端末を活用し、個別最適	授業や探究の時間、及び自宅学習において、一				
の向上を図りたい。		な学びと協働的な学びの一体的充	人一台端末を効果的に活用し、一人一人の興				
新学習指導要領の本格実施に向		実を図る	味・関心に応じた学習課題に取り組む。また、				
		大で囚囚					
け、観点別学習状況評価のスキー		(0) [[[日]] 7 日 2 1 1 2 2 2 4 4 9 2 2 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ICTを活用した協働学習を多く取り入れる。				
ムを作成することができた。東高		(3) 地域に開かれた学校づくりの推進	ア 「東(あゆ)の風プラン」等を活用して地域				
校生として卒業するまでに身につ		と戦略的情報発信体制の構築を図	探究活動を推進し、郷土の資源に目を向				
ける資質・能	力を「東光力」と位	る	け、地域を知り、地域に貢献する意欲や態				
置づけルーブリックを作成した。			度を育成する。				
今年度から本格運用するが、指導			イ 諸活動を積極的に推進し、種々の広報媒体				
と評価の一体	化を図るべくさらな		をとおして新潟東高校の魅力を発信する。				
る改善に取り組む。		(4)組織的な研修体制を構築し、授業	ア 組織的な授業改善に向けて、教科単位で互				
		改善や生徒支援体制の充実を図る	見授業を計画する。				
いじめ見逃しのない安全安心な		以書へ主作文版体前の元夫を囚る					
学校生活のため、教員と保護者の							
意識改革および共通理解を図るた			じめ防止、SNSの使い方等に関して教員				
め、教員・保護者の合同研修会を			のスキルアップを図る。				
実施する。			ウ 生徒面談週間を通じて、ハイリスク生徒の				
生徒面談週間を年間3回設定し			把握と職員間での情報共有を図る。				
ハイリスク生	徒の早期把握に努め	(5)業務の改善に着手し、教員の勤務	ア 業務仕分けを行うことにより、教員の働く				
る。また、生徒が発するSOSを		時間に対する意識を向上させ、業	意識の向上を図る。				
確実にキャッチするため、自殺予		務量の平準化を図る	イ 特定の教員に業務が集中しないよう、組織				
防教育に関する研修を充実させる		W= - 1 1100 H 0	としての見直しを行う。				
とともに適切な組織敵対応がなさ			ウ 機会を捉えて随時保護者等に情報発信し、				
とともに週切な組織敵対心かなされているか不断の見直しを行う。			理解が得られるよう働きかける。				
		日什么一					
		具体的方質					
	・スタート地点を	・単元テストを活用し、家庭学習による目					
	確認し、どこまで	させる。授業改善をとおして学期毎の欠点					
	伸ばせたか、「伸び	・ベル着を徹底させるとともに、週末課題					
	しろ」を検証する	り組みをとおして、学習習慣を身につけ					
確立と学力	ため、到達度テス	・放課後講習や夏期講習などにより、進路	8希望に合わせたより実践的な学				
	ト等の結果を分	力の養成に努める。	·				
る	析・検討し、指導	・週末課題などを利用して、基礎学力や受	受験に対応できる実践的な学力の				
	の工夫・充実を図	定着を図る。					
		足有を図る。 ・「東 (あゆ) の風プラン の実践を利用して、学びの過程を意識づけさ					
# 1.11.11	せ、仲間と協働して解決する力を身に付けさせる。						
	挨拶の励行や時間	・挨拶及び遅刻指導、校外自転車指導を実施する。					
	を守ることを徹底	・学年毎の頭髪服装検査、及び服装チェック指導の実施する。					
	し、社会性を育成	・定期的に頭髪・服装検査を実施し、注意を喚起する。					
標の実現	する。また、総合	・貴重品の管理を徹底するとともに、ホームルーム等をとおして規範意識					
	学力テスト等を活	の醸成を図る。					
	用し学習到達度の・街頭指導、講習会等をとおして自転車の運転マナーの徹底を図る。						
中心層をC1~B		・教室等の校内美化を徹底するとともに、月1回保健だよりを発行し、感					
コントル コントル コンドル コントル コントル コントル コントル コントル コントル コントル コント		・教主等の权内実化を徹底するとともに、月1回床健によりを発行し、恐 染症や自己の健康管理など健康・安全についての情報を提供する。					
I							
		・進路ガイダンス、進路だより、模擬授業体験、職場見学を通して進路意					
への底上げに取組		識の向上を図る。また、社会状況の変化に対応した進路情報を随時提供					
み学習意欲の喚起 し、学習意欲を高めることで進路実現を目指す。							
を図る。 ・ 個別指導等を手厚く行うとともに模試対策講習を実施し、国公立大学等							

・抽ばに関	ア 「東(あゆ)の	大学・短大進学者数の割合を40%まで底上げする。 ・3年間を見通した進路学習をとおして、自己発見と自己理解に努め、学	$\neg \dagger$	_
かれた学校づくりの推	風プラン」等を	習指導、生活指導と連携しながら職業観を養うことで将来の進路目標を 明確にする。		
進と戦略的 情報発信体	究活動を推進	・地域からのボランティア活動の要請に対し、全生徒へ速やかに呼びかけ るよう努力する。		
制の構築を 図る	の活用を図るこ	・進路指導に係るガイダンス等に新潟経営大学に参画してもらう。 ・総合的な探究の時間やLHR、面談等をとおして多くの情報を提供するとと	\exists	
	とのできる人材 を育成する。	もに、一人一人に合った進路選択ができるようきめ細かく指導してい く。		
	イ 諸活動を積極 的に推進し種々 の広報媒体を東 おしています。	・探究学習推進委員会が中心となって、関係機関、進路指導部、各学年と連携し、「東(あゆ)の風プラン」における生徒の学びを充実させ、その内容を地域の方々や中学生に向けて随時発信する。		
- 《日〈此·h/h -ł ›	校の魅力を発信 する。 ア ICTを活用	・ICTを活用した授業実践に取組み、その成果と課題を全職員で共有す	4	
・組織的な研修体制を 構築し、生	した授業作りに	・101を活用した授業美銭に取組み、その成果と課題を生職員で共有する。 ・互見授業週間を設け、教員同士が学びあい、対話をしながら授業改善に	4	
徒支援体制の充実を図	修を実施すると	取り組む。 ・生徒に対し、学年末に授業アンケートを実施するとともに、保護者・中		
3	業をとおして組織的な授業改善	学校に対して公開授業を実施し、意見を聞き、授業改善につなげる。 ・総合的な探究の時間についての教員研修を実施し、各学年のプログラム	$\frac{1}{2}$	
	に取り組む。 イ 種々の職員研	に生かした内容となるよう工夫を図る。 ・PTAの研修会でいじめ防止・自殺予防について研修する。	_	
	修の実施と教員 意識の向上を図	・個人面談やアンケート調査により、いじめについての情報を共有し、早期発見、早期対応を図る。		
	る。 ウ 随時の生徒情	・職員間で生徒の情報を共有するとともに、生徒支援委員会と連携し個別指導計画を作成し、支援に繋げる。また、スクールカウンセラーとの連		
	報を共有し、生 徒個々に応じた 支援体制を構築	携を図り、組織的な教育相談を行う。 ・SCと情報共有を密に行い、併せて「こころとからだの健康アンケート」の活用により、多面的に生徒の状況把握に努める。	\dashv	
	する。	・いじめアンケート等に基づく学年や学級担任への支援を組織的に行う。 ・欠時数調査を実施し、欠席の多い生徒に対しては担任を通じて保護者と	\exists	
		の連絡を密にし、情報の共有を図る。		
・業務の改 善に着手	ア 業務仕分けを 行うことによ	・学校閉庁日及び定時退庁日を設定し、教職員の勤務時間に対する意識改 革を進める。		
し、教員の 勤務時間に	り、教員の働く 意識の向上を図	・各部の仕事内容が職員全体に明確に伝わるように、掲示板や共有フォル ダなどの有効活用により、効率的に情報共有を行い、業務を行う。		
対する意識 を向上さ	イ 特定の教員に	・アレンジャーや掲示板を活用して自主学習を促し、適切な情報提供を行 う。		
せ、業務量の平準化を	いよう、組織と	・日常の業務が固定化されないよう改善の視点を持って取り組む。 ・全校生徒が積極的に活動できる学校行事となるよう改善を図る。	_	
図る	しての見直しを行う。	・保護者宛メール、ホームページを随時更新し、学校の情報発信力をめ、 開かれた学校づくりを推進する。		
	ウ 機会を捉えて 随時保護者等に はおび信し 押	・「学年だより」を月1回は発行し、保護者への情報提供を行うとともに、生徒及び保護者との面談をとおして家庭との連携の強化を図る。		
	情報発信し、理 解が得られるよ う働きかける。	・メール連絡システムを有効に活用するとともに登録件数100%を目指し登録を促進し、家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っていく。		
			総	 合評個